

修学旅行

今月十三日(月)より三泊四日の日程で、修学旅行が行われました。



旅程は、一日目に勿来から宮島(厳島神社)へ、二日目に広島(平和記念公園)から大阪(ユニバーサル・スタジオ・ジャパン)、三日目に京都市内(金閣寺、清水寺他)、四日目に京都(伏見稲荷、十三間堂、東寺)から勿来というコースです。



従来ですと三日目は生徒自身が企画する班別研修となるはずですが、広く京都市中に生徒を散らすと、感染リスクが高まるというところで、2コース固定の選択式としました。



本校生の日頃の行いが良いのか、四日間一滴の雨にも降られず、また、発熱などの体調不

良者(コロナ疑いともなれば旅行中止を判

断しなければなりません)も出ずに、無事終了することができました。



旅での日々の様子は、本校HP内「今日の勿来高校」に「修学旅行」というタイトルで紹介しておりますので、そちらをご覧くださいただければと思います。



今回の旅行で私が最も印象深かった場面は、広島平和記念公園内の「原爆の子の像」を訪れた時でした。凜とした冷たい冬の朝に生徒たちが像の前に並び、代表の阿部さんと島抜さんが、みんな得手分けして折った折り鶴を捧げ、手紙にしたためた今の自分たちの気持ちをお伝えしました。

私たちは、戦争を知りません。私たちにとっての戦争は、日本史の教科書や、映画の中に存在している日本の歴史というイメージが大きく、当時の人々の苦しみを頭では理解していたものの、自分自身にとっては、どこか遠いことのように感じていました。

本日、平和記念公園を訪れ、当時のようすを示す資料を見ることができました。変わらない日常をすごしていた中で、一発の原子爆弾が無差別に多く

の人の命をうばい、そして生き残った人たちの人生をも変えてしまいました。また現在も苦しみや悲しみと向き合っている人がいます。戦争はとてもおそろしいことでもう二度とあってはならないことなのだと感じました。私たちのあたりまえの日常は多くの人々のたくさんの思いのうえになりつつあるのだと改めて感じます。この平和な日々をこれから先もずっとつなげていけるように努力してまいります。

戦争により未来を奪われた人々に心よりご冥福をお祈りいたします。



ドキドキしますね



お互いに手と手を握り、見つめ合っていてというシーンではありません。これは先月末行われた理科の授業です。

生徒は「心臓の拍動数はどのよう調節されている

か」について、考察を深めています。私



が高校生（四十年弱前）の時は、先生が自律神経系について板書し、解説し、ひたすらノートに書き写すという授業だったよいうな気がします。今は、実際にスクワットして実際に自分の脈が変化する実験をしながら考察を深めます。記憶に残るし分かり易いですね。ちなみに、この授業は研究のために録画され、先生は研修・指導を受けることになりました。



校長のつばやち

修学旅行短歌四首

師走十三日、宮島にて詠める

夕風の水面（みなも）を滑る連絡船
旅平らかにと厳島に祈る

十四日、広島とUSJを巡りて詠める

原爆に焼かれし街のジオラマに
USJの平和を知る

十五日、渡月橋の袂（たもと）にて詠める

かんざしが冬日に映える京娘
制服となりバスに戻りぬ

十六日、三十三間堂にて詠める

冷気満つお堂に並ぶ観音の
容貌（かたち）やはらかなり心温もる